

宮殿修復 Vol.4

・修復した宮殿の組み立て【2022年1月～2022年2月 実施】

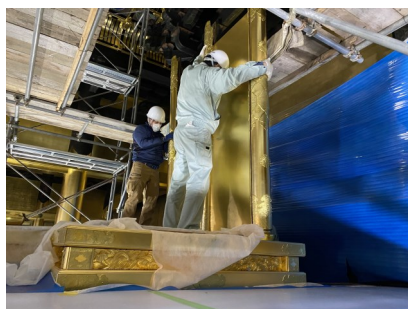
各部材の修理を終え、宮殿の組み立てを行います。

組立前には工房にて各部材に銹金具を取り付け、堂内では須弥壇の周りに足場を設置します。須弥壇の上に礼盤を置き、束柱、彫刻板、丸柱を取り付けます。柱と柱の間には向板をはめ込み、虹梁や頭貫などを取り付けて宮殿の胴部分を固定します。固定した胴の上に屋根の升組をのせ、慎重に屋根本体を升組の上へのせます。最後に木鼻等の彫刻を取り付けたら宮殿の修復が完了となります。

※1 虹 梁 : 柱の上に水平に渡した部材の一種で、そりがあり、屋根の荷重を支えます。

※2 頭 貫 : 柱の一番上に用いられる柱と柱をつなぐ横木の事です。

※3 升 組 : 柱の上などにあり、軒部分を支えます。



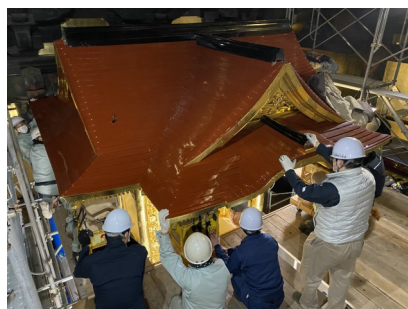
▲ 柱・向板取付作業の様子



▲ 虹梁取付作業の様子



▲ 屋根搬入作業の様子



▲ 屋根取付作業の様子



▲ 木鼻取付作業の様子



▲ 修復後